

J A高知県 自己改革の取組

J A高知県は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を実現するためのひとつの手段として発足しました。

当組合では、これまでに自己改革として、J Aグループ高知県域担い手サポート連絡協議会による各種補助事業を活用した環境制御関連機器や省力化機器の導入支援、実需者への直接販売、集出荷場の配置見直しや肥料銘柄集約等による出荷コストの低減などをすすめてまいりました。

今後とも、J A高知県は地域になくてはならないJ Aであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでまいります。

I. 自己改革を実践するための具体的な方針

「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握することを基本とし、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向け、主要な品目ごとに営農指導として取組むほか、販売部門として取組むことを明確化し、部門連携により所得向上につながるよう取組みます。また、自己改革の基本目標である「地域の活性化」に取り組んでまいります。

II. 自己改革の実践に向けた組合員の意思反映

自己改革の実践にあたっては、正組合員をはじめとした役職員の担い手訪問による対話や集落座談会等により、自己改革の評価を把握していきます。

また、地域に根差したJ Aを目指し、准組合員を「正組合員とともに農業や地域経済の発展を支える組合員」と位置づけ、准組合員モニター制度を通じて、准組合員の声を聴くことで、正組合員と准組合員が一体となったJ A経営を実現します。

さらに、農業振興の応援団である准組合員の事業利用にあたっては、正・准組合員の利用状況を把握したうえで、自己改革の基本目標につながるよう取組みます。

III. 自己改革を支える「経営基盤の確立・強化」に向けた取組について

マイナス金利の影響等によって今後数年間は今までにない厳しい経営状態となり、これまでとは事業のやり方を見直さざるを得ない状況となっています。こうした状況のなか、令和3年度から経営基盤強化に着手しているものの、昨年3か年計画で示した令和5年度の成行きの経営シミュレーションでは、2,621百万円の赤字の見通しとなりました。赤字の主な要因は、J Aのこれまでの事業モデルである営農経済事業の赤字を信用・共済事業で補うという構造が成り立たなくなっていることによります。

当組合では、このような事業モデルからの転換をはかるため、大規模J Aである強みを生かした販売力の強化や効率的な施設運営を通じた費用削減により、健全で持続性のある経営を確保することを目的として、昨年6月の通常総代会において「3か年計画」を承認いただき取り組んでいます。

JA高知県 自己改革の取組（数値編）

（全国様式）

重点目標

成果指標・目標値

農業者の所得増大・農業生産の拡大

青果物出荷単位の大型化・JRコンテナなどの利用による運賃削減			令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象者:集出荷場の出荷者		(想定)コスト削減効果	取組結果	目標	目標
令和5年度	1,000台 県域目標設定	1台当たり30千円	982台	1,000台	1,000台

青果物薄い個包装フィルムへの変更による低コスト化			令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象者:集出荷場の出荷者		(想定)コスト削減効果	取組結果	目標	目標
令和5年度	7,000トン 県域目標設定	1kg当たり1.3円	700トン	6,000トン	7,000トン

低コスト生産資材(全農集中銘柄)の普及拡大			令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象者:組合員		(想定)コスト削減効果	取組結果	目標	目標
令和5年度	普及率80%	慣行銘柄対比3～29%	75%	75%	80%

地域の活性化		令和3年度	令和4年度	令和5年度
食と農の体験の場の提供(あぐりスクール)		取組結果	目標	目標
令和5年度	5地区	1地区	3地区	5地区

経営基盤の強化		令和3年度	令和4年度	令和5年度
集出荷場等施設配置の見直しによる出荷コストの削減		取組結果	目標	目標
令和5年度	集出荷場再編計画策定・計画の実施、施設等整備、広域体制	2集出荷場	2集出荷場	2集出荷場
集出荷場の運営方式の改善による出荷コストの低減		取組結果	目標	目標
令和5年度	運営方式の改善の実践	8か所	7集出荷場	7集出荷場
国内地域資源の活用		取組結果	目標	目標
令和5年度	土壌分析件数	5,808件	5,900件	5,900件

対話・意思反映			
項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	取組結果	目標	目標
担い手訪問・対話(営農件数)	54,164件	54,200件	54,400件
集落座談会等(回数・人数)	119回・2,826人	120回・3,000人	120回・3,000人
青壮年部・女性部との意見交換会(回数)	7回	7回	7回
准組合員(広報誌)モニター(意見提出人数)	11人	20人	30人

J A高知県 自己改革工程表（農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域

1. 営農指導

戦略	戦術	具体的な施策
生産量の拡大・品質の向上対策	反収・品質の向上	研修会の開催
		主要6品目の反当出荷量の拡大
	つながり強化	出向く機会の増大
	経営管理支援	青色申告会の拡大
		個別経営指導の実施
	土壌診断の実施	土壌分析実施農家数の拡大
労働力の確保	データを活用した営農指導強化	品目数の拡大
	無料職業紹介所の運営強化	求人・求職者の募集対応強化
	外国人材の活用	関連業者の調査、情報収集

2. 園芸販売

戦略	戦術	具体的な施策
品目部会員の所得向上	販売力の強化	顧客と販売単価の確保・向上をはかる計画的な事前値決め販売の実施
		取引先・実需者との営業商談の実施
		実需者との商談による規格外品等の買取販売の実施
	宣伝・販促活動の実施	生産者およびマネキン派遣に替わる高知県産品の認知向上への取組実施
		量販店でのJ Aグループ高知フェアの実施
		輸出の定着・拡大に向けた営業・商談の実施
	出荷品の安全・品質の確保、信頼の向上	適切な作業管理と異物混入等の防止をはかるガイドライン準拠・集出荷場版GAPの実施
販売代金の精算・決済期間の短縮	労力・出荷コストの低減	出荷包装規格の見直し検討
		出荷単位の大型化 青果物薄い個包装フィルムへの変更による低コスト化
出荷コストの低減	計精算システムの整備	照合・確認業務等の見直しによる新システムの構築
	集出荷場等施設配置の見直し	集出荷場の再編・出荷作業の集約等による見直しによる出荷コストの削減
	集出荷場の運営方式の見直し	運営方式の見直しによるコストの削減

3. 米穀販売

戦略	戦術	具体的な施策
県域共同計算を主とした集荷販売	主食用米と非主食用米のバランスの取れた生産の推進	県内外の需要に合った生産と集荷販売 県と連携した新品種、新規需要米の生産拡大 県外卸向けの産地指定米や特裁米の集荷販売
	酒米の生産・供給の実施	酒造組合、県など関連組織との連携による酒米需給のマッチングの取組
パールライスブランドの販売強化	県産米の地産地消および県外への推進	米穀卸および量販店への積極的な推進、県内外への販売実施
	食と農の体験の場の提供	大手量販店と生産地をつなぐ田植え、稲刈りイベントの実施

の活性化)

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
研修会開催数	1,431回	1,440回	1,450回
主要6品目の反当出荷量がR3園芸年度に対して、R4(2%増)R5(4%増)の目標に達した品目数	—	3品目	4品目
訪問件数	54,164件	54,200件	54,400件
会員数	1,546人	1,550人	1,560人
実施件数	308件	310件	312件
土壌分析実施農家数	2,235件	2,240件	2,245件
活用できる品目数	—	3品目	10品目
マッチング数	322件	360件	380件
集出荷場での導入	3地区4出荷場	4か所	5か所

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
値決め販売量の割合	26%	25%	25%
県外6事務所を主体とした個別商談回数	248回	200回	200回
実需者との交流商談会による新規取引件数	5件	3件	3件
取扱高	22.2億円	22億円	22.5億円
量販店等へのモニターの設置店舗数	1店舗	2店舗	2店舗
フェアの実施店数	5,300店	4,000店	4,300店
新規取引件数	0件	2件	2件
出荷場版GAPの実施状況の巡回点検回数	地区40回・本所7回	地区本部・本所各2回以上	地区本部・本所各2回以上
実施件数	2件	2件	2件
JRコンテナ・貸切トラック台数	982台	1,000台	1,000台
実施数量	700トン	6,000トン	7,000トン
新システムの構築と移行	システム構築	詳細設計、システム構築	システム構築・単体テスト
再編計画に基づく、施設等の整備、広域出荷体制の実践	2集出荷場	2集出荷場	2集出荷場
集出荷場の運営見直し実践集出荷場数	8か所	7集出荷場	7集出荷場

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
主食米(酒米除く)の集荷販売数量	9,713トン	8,200トン	8,300トン
非主食米の集荷販売数量	4,050トン	4,600トン	4,800トン
酒米の集荷販売計画数量	372トン	370トン	400トン
精米搗精数量	3,476トン	3,700トン	3,800トン
参加人数 精米販売数量	コロナ禍で開催できず	20人 1,000袋／5kg	20人 1,100袋／5kg

4. 畜産販売

戦略	戦術	具体的な施策
畜産・酪農生産者の所得向上 担い手農業者の所得向上	販売力強化による高知県ブランドの確立・強化 酪農生産基盤の維持	地域団体商標の有効活用による土佐あかうしの更なるブランド力の強化と有利販売
		行政や生産者、四国生乳販連との連携強化による酪農生産基盤の維持と計画的な生乳生産
新食肉センターの整備による食肉事業の総合的な取組強化	川上から川下まで一気通貫の取組みによる収支改善	新たに取込む事業（セリ・部分肉加工・内臓販売など）、新規に取組む事業（廃用牛の集荷・J A直売所への供給）で安定的な経営

5. 農産販売

戦略	戦術	具体的な施策
高付加価値商品	高付加価値商品の販売による所得増大	高付加価値商品を製造することによる荒茶単価の維持 茶・ゆず製品の新商品開発による販売拡大
営業力強化	営業力強化による所得増大	加工品の営業訪問活動による販売高拡大

6. 生産資材購買

戦略	戦術	具体的な施策
生産資材コストの低減	営農指導との連携	銘柄集約によるコスト低減
	国内地域資源の活用	土壌分析に基づく適正施肥
組合員サービスの向上	出向く体制の強化	営農経済渉外担当者の配置 集落営農法人・農業生産法人への訪問活動
組合員ニーズへの対応	円滑な情報連携	情報端末機の普及

7. 農業機械購買

戦略	戦術	具体的な施策
組合員サービスの向上	出向く体制の強化	調子伺い推進訪問実施
	共同利用によるコスト低減	農機レンタル、作業請負の件数拡大

8. 燃料購買

戦略	戦術	具体的な施策
生産資材コストの低減	農業者の営農支援	仕入機能強化および安定供給
石油中継基地の防災対策	石油中継基地の適正な配置	石油中継基地の移設および集約
戸配送コストの引下げ	戸配送の効率化	残油計システムの普及拡大

9. 農業融資

戦略	戦術	具体的な施策
農業の成長支援	事業関連携により出向く体制の整備	事業間連携による資金需要調査の実施
	農業者の課題に対する相談機能の構築	メイン強化先及び新規就農者への訪問

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
市場出荷の平均枝肉単価の向上・集荷頭数の確保	平均枝肉単価 (去勢・税抜) 2,221円/kg	平均枝肉単価 (去勢・税抜) 2,250円/kg	—
	集荷頭数 461頭	集荷頭数 500頭	—
生乳生産量の確保と後継牛確保の取組	18,696トン	計画生産 19,000トン	計画生産 20,000トン
	388本	性判別精液取扱 500本	性判別精液取扱 500本
整備に向けての計画の進捗	I期工事完了 II期工事中	整備工事	令和5年4月より操業開始

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
二番茶の平均単価820円/kgと比較した、高付加価値商品（紅茶、半発酵茶、釜炒茶）の販売単価	二番茶平均販売価格 859円/kg	高付加価値商品の販売 単価1,500円/kg	高付加価値商品の販売 単価1,500円/kg
新商品開発	6アイテム	2アイテム	2アイテム
訪問件数	6,222件/年	6,200件/年	6,225件/年

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
肥料銘柄集約	4銘柄	5銘柄	5銘柄
低コスト資材（全農集中銘柄）の普及拡大	75%	75%	80%
土壌分析件数	5,808件	5,900件	5,900件
専任担当者配置数	24人	29人	35人
訪問件数	4件	45件	50件
携帯タブレット導入	47台	47台	50台

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
訪問推進件数	7,909件	8,500件	9,000件
利用件数	712件	750件	800件

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
重油取扱数量拡大	35,415kℓ	35,500kℓ	36,000kℓ
浸水区域における基地廃止数	検討	検討	検討
残油計システムの設置数	86基	113基	400基

業績評価指標	令和3年度取組結果	令和4年度目標	令和5年度目標
地区別実施件数	639件	恒常化	恒常化
訪問件数	493件(実件数)	320件	320件

戦略	戦術	具体的な施策
地域コミュニティの活性化	食と農の体験の場の提供	食農教育活動(あぐりスクール)
組合員のメンバーシップの強化	組織の活性化	集落座談会等の実施
		青壮年部・女性部との意見交換会
		広報誌モニター制の実施

業績評価指標	令和 3 年度取組結果	令和 4 年度目標	令和 5 年度目標
実施地区数	1 地区	3 地区	5 地区
実施回数・人数	119回・2,826人	120回・3,000人	120回・3,000人
実施回数	7 回	7 回	7 回
意見提出人数	11人	20人	30人

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



令和3年度「ごはん・お米とわたし」
作文・図画高知県コンクール
図画の部



© みんなのよい食プロジェクト



特選

『いねかりをしたよ』

南国市立長岡小学校 北村 さくら子さん（2年生）

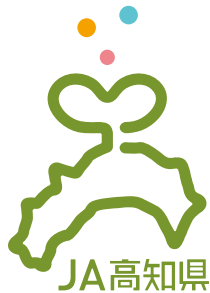


特選

『お兄ちゃんのごはん大もり！すごーい！！』

安芸市立土居小学校 北川 紗彩さん（5年生）





高知県内の JA 職員と農家がともに支え合い、農家・消費者の暮らしを豊かにし、高知の農業を発展させることを目的として制作したロゴマークです。

マークは、高知県のみどりの大地から新しい芽（作物・情報）が成長している状態を表し、またその芽は、全国・未来へと繋げる「発信の象徴」でもあります。
水色のドットは清らかで豊かな高知の水を、オレンジのドットは大地に降りそそぐ太陽、ピンクのドットは人々のつながりを育む愛情を表しています。これら3つのドットは新しい芽に栄養を与え育てる養分の役割を持っています。

高知県農業協同組合

〒781-8510 高知県高知市五台山5015番地1
TEL 088-821-6091 FAX 088-856-6980
<https://ja-kochi.or.jp/>



マスコットキャラクター
コチット

JA 高知県の広報宣伝部長で、種の妖精。
モチーフは「種」と「ウサギ」。
JA 高知県のロゴマークと同様、3 色のドットが示す「水」・「太陽」・「愛情」から作られており、高知のめぐり（農業）の神様に仕え、県内各地の農業と暮らしが豊かになる「幸せの種」として駆け巡ります。
「コチット」はウサギのように駆け巡る高知（コウチ）のラビットから名付けられました。